



NPO 法人太陽光発電所ネットワーク

# 総会議案書



約3年ぶりの参加となった「再生可能エネルギー世界展示会」出展ブースの様子（2023年2月1日撮影）

## 2023年 通常総会

[第18期（NPO法人化以降）：2022年6月1日～2023年5月31日]

2023年7月30日（日）13:30～

Zoom / 文京シビックホール会議室1



## 目次

PV-Net 設立 20 周年を迎え、2030 年に向けた新たな一歩へ	P. 4
1 号議案 2022 年度活動報告	P. 6
全体報告	P. 6
地域交流会活動報告	P. 9
2 号議案 2022 年度決算報告	(別紙)
3 号議案 2023 年度活動方針 (案)	P. 16
(1) 2023 年度活動方針	P. 16
(2) 重点活動	P. 16
(3) 地域交流会活動計画	P. 18
4 号議案 2023 年度予算 (案)	(別紙)
5 号議案 役員改選 (案)	(別紙)

## PV-Net 設立 20 周年を迎え、2030 年に向けた新たな一歩へ

副代表理事 高柳良大

2023 年 5 月 24 日、太陽光発電所ネットワーク（PV-Net）は創立 20 周年を迎え、21 年目の活動に入りました。

市民一人ひとりが地球温暖化の防止に貢献できる太陽光発電システムの普及拡大を促進するため、太陽光発電オーナー同士が学び合い、支え合う場として誕生した PV-Net。会員は「プロシューマ（電気の生産と消費者の立場）」として再生可能エネルギーを生み出すとともに、発電量のデータやトラブル事例などを他の会員、企業・行政に対して共有することで、社会に役立ててきました。

2022 年の議案書にも記されていたとおり、ここ 20 年で気候変動がもたらす影響は深刻さを増しており、2023 年 3 月に公表された IPCC 第 6 次評価報告書では、「気温上昇を 1.5 度に抑えるためには、2035 年までに世界全体で温室効果ガス 60%の削減が必要である（2019 年比）」と、改めて危機的な状況が指摘されました。こうした背景もあり、欧州をはじめとする諸外国では気候変動への関心が高まり、抑止への取り組みが驚異的な速さで進められています。一方、日本においては石炭火力発電継続の方向を示すなど、気候変動対策において遅れをとっていると言わざるを得ません。

こうした課題に立ち向かうため、次の 10 年に向けて PV-Net という同じ船に乗る仲間が、一丸となって進むべき方向を定めるための「ミッション・ビジョン」について、理事会メンバーを中心に策定を進めております。1 月～2 月にかけて会員の皆さまにはアンケート調査を実施させていただきましたが、その結果内容も踏まえて検討を進めてまいりました。ご回答いただいた会員の皆さまには改めて感謝申し上げます。

その結果、PV-Net が果たすべき使命・目指すべき社会としてのミッションとして、「**すべてのエネルギーを再生可能エネルギーでまかなえる社会をつくる**」を仮案として掲げました。

このミッションは簡単に実現できるものではありませんが、PV-Net が存在する意義としては、皆さまの思いも同じであると考えております。加えてこのミッションのもと、2030 年までに実現したい 3 つの将来像・ビジョン（案）も策定中です。

### 3 つの Vision

#### ① プロシューマとしての太陽光発電システムの普及推進

- A) プロシューマとして市民への太陽光発電の情報発信
- B) プロシューマとして設置から廃棄までを適切に行える仕組みづくり

#### ② 地域循環共生コミュニティの構築・強化

#### ③ カーボンニュートラルに向けた社会の変革

- ① **プロシューマとしての太陽光発電システムの普及推進** は、私たち PV オーナー・プロシューマの立場・目線から、未設置者や設置検討者に対する正確な情報の発信を行うほか、太陽光発電・蓄電池の設置支援から、これから問題になるであろう廃棄・リサイクルまで、太陽光発電における一生涯のサポートを行うことで、安心して設置できる社会を目指します。
- ② **地域循環共生コミュニティの構築・強化** では、地域交流会を中心とした各地域のネットワーク・コミュニティの構築・強化を行うことで、地域に合った発電所や市民向けの小型システムの設置促進および再生可能エネルギーの普及を目指します。またそのなかで、脱炭素社会の実現に向けた次世代のリーダを発掘・育成も目指します。
- ③ **カーボンニュートラルに向けた社会の変革** では、全国の気候危機に立ち向かう地域活動家や団体と連携し、各自治体との連携や再エネ拡大の障壁となっている課題の解決などに向けた政策提言を行っていきます。これら自治体・国への提言を継続することで市民・国の意識を変え、社会を変革していきます。

これら3つのビジョンは PV-Net 会員全体の活動となりますが、当然、理事会や事務局だけで解決できる内容ではありません。また地域ごとに背景・問題は違うかと思しますので、やはり各地の特性に合った活動を検討し、取り組んでいくことが必要と考えます。

今後、活動事例については広く情報を共有できる場を用意し、成功事例などは地域から全体に広められればと考えております。引き続き、活動へのご賛同・ご支援をよろしくお願いいたします。

## 1 号議案 2022 年度活動報告

2022 年度の活動方針として掲げたのは、「**気候危機回避と、安全安心な地域社会構築をめざす**」でした。当然、当団体だけで取り組めるテーマではなく、企業や自治体、各種団体との連携が必要となります。環境省「食とくらしの『グリーンライフ・ポイント』推進事業」に採択された「地域主導型・ソーラー普及事業」をきっかけに、さまざまな団体に対し連携・協働を働きかけ、脱炭素・気候危機回避に向けた取り組みを進めました。

組織運営面では、2018 年 7 月に取得した認定 NPO 法人について、5 年間での寄付者数が更新に必要な基準（寄付額 3,000 円以上の寄付者が年平均 100 人以上）を満たすことができなかったため、2023 年 7 月 3 日をもちいて認定期間は終了となりました（寄付者数 434 名、年平均 86 名）。今後は通常の NPO 法人へと戻り、税制上の優遇措置などは受けられなくなりますが、当団体にとって、寄付金は重要な資金調達手段の 1 つであることに変わりはありません。寄付金、寄付者を増やす新たな施策として、対価性を持たない（＝寄付扱いとなる）「会費 3,000 円の個人賛助会員の設置」を計画中です。会の運営に関わる意思は持たずとも、もっと気軽に PV-Net を応援したいという方の受け皿となると同時に、PV-Net の賛同者・支援者を広げるためのアクションとして展開していきます。

### 1. 気候危機の緊急性の発信

昨年度、東京都や川崎市などで、一定の規模以上のハウスメーカーを対象とした太陽光発電の設置義務化の条例が可決されました。影響力の大きな自治体でのこのような動きは歓迎する一方で、我が国が掲げる 2050 年カーボンニュートラルおよび 2030 年度の CO<sub>2</sub> 排出削減目標 46%減の目標達成には、条例による導入量や施策がまだまだ不十分なことから、**パブリックコメント募集等に対して意見表明**を行いました。

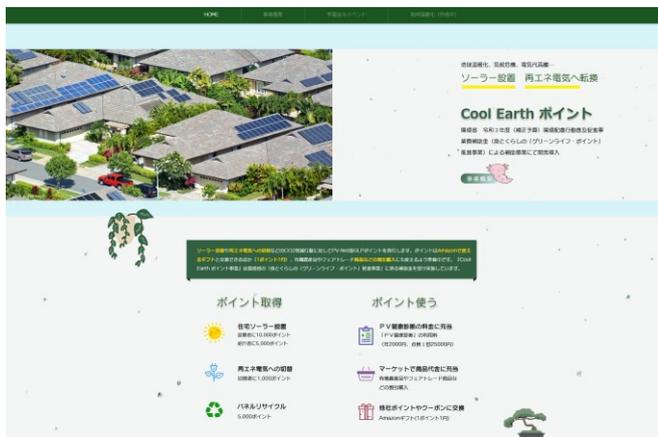
また会員や理事の有志メンバーを中心に行われた、**地方議会に対する温暖化対策強化などを求める陳情提出について、団体としてのサポート**を行いました。気候変動に高い危機意識を持つ地方議員を増やし、地域から温暖化対策・エネルギー政策を変えていく取り組みの 1 つですが、NPO 法人として政治キャンペーンに関わることについては大きな制約があり、進め方については今後も検討・改善を進めていきます。

### 2. 再エネ普及に関する調査・研究活動

住宅用・事業用問わず、太陽光発電のトラブルに関する相談・問い合わせが寄せられるようになっていきます。1 つの事例としては**メガソーラー発電所で使われている太陽光パネルの発電不良・性能不良が疑われる事象に対する調査依頼があり、中立的な立場からの検査を実施**しました。長年にわたり国の研究機関とともにやってきた調査・研究活動の実績やノウハウが、当団体への信頼という形で実を結んでいます。

また昨年より、**EV（電気自動車）充電サービス「WeCharge（ウィーチャージ）」を展開するユビ電（株）に対し、アドバイスや技術支援**を行っています。これは長年エコテックや PV-Net で、再エネ設備の企画・設計・施工に携わってきた事務局・宮下洋一郎技術部長の高い専門性が評価されたことによるものです。同社では 2025 年末までに 8 万口の充電設備の導入を目標にしており、その達成に向け、PV-Net へも大きな期待が寄せられています。

### 3. 「食とくらしの『グリーンライフ・ポイント』推進事業」の推進 / 再エネ利用の拡大に向けた取り組み / 地域活動の意義と展望を明確に



PV-Net の GLP 事業特設サイト

環境省「食とくらしの『グリーンライフ・ポイント』推進事業（GLP 事業）」において PV-Net では、地域で開催される温暖化防止啓発や再エネに関する学習会・イベントへの参加を入口に、**太陽光発電システムの設置や再エネ系電力会社への切り替え、不要になった太陽光パネルの適正処理**などを行う個人に、インセンティブとしてのポイントを付与することで、太陽光発電の普及・拡大をめざしました。初年度は事業期間が 5 か月程度と少なく、またシステム開発や協力業者の開拓も同時に進める必要があったため、**十分な実績とはなりま**

せんでした。

特に、再エネ利用拡大の手段の 1 つである再エネ系新電力への切り替えについては、当初、PV-Net が再エネ新電力の取次店・代理店になるなどして、会員の皆さまへ魅力的な電力プランを案内する計画でした。しかし電気料金の高騰を受けて、各社、新たな顧客の受入れができない事態となり、未実施に終わりました。

学習会参加者	太陽光発電 (リユース含む)	蓄電池	V2H システム	再エネ新電力 切り替え	リユース リサイクル
100 名 (申し込み 177 名)	6 件	4 件	3 件	0 件	リユース活用は設置としてカウント

PV-Net の活動の主役は地域ですが、近年は会員の高齢化や、事務局体制の縮小などもあり、事務局と地域交流会との連携が十分とはいえない状況です。前述の GLP 事業においては、全国の地域事業者との連携構築が事業の展開・拡大のカギを握ることから、地域交流会と PV-Net 全体が Win-Win となる仕組みを構築中です。目指すのは、地域交流会の収益確保、地域会員の増加です。

### 4. 新しい地域・市民共同発電所の可能性の検討

FIT 制度から FIP 制度（フィードインプレミアム：売電価格＝市場価格＋プレミアム価格）への移行、小規模発電所（10～50kW）の保安規制強化といった制度変更により、以前と比べて共同発電所建設のハードルは高くなっています。それでも自身で太陽光発電を設置できない人たちにとって、再エネ拡大に貢献できる共同発電所の意義は大きいことから、引き続き、実現への可能性を模索していきます。

複数名がお金を出し合って発電所を作らずとも、若者やエネルギー貧困層に対して、社会や再エネ普及のために自身の資金や役立てたい市民サポーターが太陽光発電システムの導入費用を負担する——。設置者は初期費用ゼロでシステムを導入しながら、削減された電気代相当分や売電収益からサポーターに返済するという仕組みなども考えられます。

## 5. 環境価値取引事業の今後に向けて

グリーン電力証書事業において、① 証書デザインのリニューアル ② 環境価値の証書化の代行 という新たな取り組みを行いました。新たなデザインについては利用者からも好評をいただいています。

東京都では昨年度より、都外に設置する自家消費型の再エネ発電等設備導入費用の支援策が始まりました。この助成要件として、同設備から得られた環境価値を証書化し、都内の事業所で自ら利用することが義務付けられていることから、環境価値をグリーン電力証書化するための依頼・相談が寄せられています。一時的なニーズかもしれませんが、こうした取り組みを通じて、グリーン電力証書や環境価値取引の新たな可能性を追求していきます。



デザインを一新した  
PV グリーン電力証書

## 6. 新たな PV リユース・リサイクルの仕組みづくり

家の建て替えや屋根の修繕など、やむを得ない理由により取り外さなければならなくなった**3カ所の太陽光発電システム**について、**リユース活用を希望する会員・一般の方へとマッチングさせる取り組み**を行いました。

マッチングが成立した理由としては、「まだ十分に発電できるシステムだった」「廃棄するには忍びないという考える家主さんだった」という面が大きいです。一方で、故障したシステムの場合はこうした引き取り手が挙がらないため、撤去費用のことを考えると、放置されてしまっているケースが殆どというのが現状です。パネルの再利用、故障システムの早期撤去 & 適正処理が進むよう、引き続き、利用者がインセンティブを得られるような仕組みづくりやモデルづくりを行っていきます。

## 7. 2030年活動ビジョンの策定

前述のとおり、PV-Net の次の 10 年に向けて、ミッション（使命）・ビジョン（目指す団体像）について策定を進めてきました。会員の現状や困りごとを把握するため、**大規模な会員アンケートを実施（発送数 1575 通、回答数 246 通、回答率 18.7%）**。その内容も踏まえ、検討を行いました。

## 地域交流会活動報告

コロナ流行 3 年目となった 2022 年。変わらず感染対策は取りながらではありましたが、これまであった規制は徐々に緩和され、少しずつ動きやすくなりました。地域交流会活動においても、積極的にリアルな場を取り戻していこうとする動きが見え始めました。

### 東北 6 県地域交流会

「東北 6 県地域交流会」という名前にふさわしい交流を目指し、「既存の会員の状況を把握しての交流」「新規会員の入会が増えるような取り組み」を掲げ、具体的には「広い東北 6 県がつながるにはオンラインも活用する」と目標を掲げたが、まったく手つかずだった。東北 6 県の会員各位とつながりをつくることができていない。

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	複数問題を一気に解決する運動を起こす	さまざまな問題の一つひとつ取り組み代わりに、それらの問題の根っこにある根本的な原因を明らかにし、グローバル・システムへの依存から抜け出し、地域の相互依存を再構築するために、協力し合う	運動の参加人数	通年				未実施	△	ドーナツ経済（環境的に持続可能で、社会的に公正）をベースに、太陽光利用のエネルギー供給を目指して話し合いを進めたが展開は次年度以降
2	会員が求める情報を把握して提供すること	関心事を把握して、関心事一つに最低でも、一人の講師または一つの資料を探す	一つ以上	情報提供／相談受付				未実施	△	一人乗り電動ミニカーの導入と紹介、自家消費型・小型太陽光発電所の製作に取り組んだが横展開できていない
3	PV-Net 発プロジェクトの横展開	各プロジェクトやイベントなどの関心度の把握	参加人数と関心度	通年				未実施	×	会員各位とのつながりをつくるには至らなかった
4	・各県の会員を知る ・活動全体を通じて新規会員の獲得声がけ	自立した会員が、相互依存する関係を目指す	主体的な参加人数	青森 山形	宮城 福島	秋田 岩手	フォロー	0名	×	理事 2 人体制（岩手・山形）に加え、各県の交流会世話人も決められなかった

### 群馬地域交流会

群馬地域交流会では、①世話人会の再開 ②広報活動の再開の 2 点に絞り活動してゆくことを目標にしましたが、新型コロナウイルス感染症の終息状況を見極めが難しく、活動の停滞を余儀なくされました。

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	世話人会の開催	・地域の結束強化 ・地域活動の活性化	4回/年	通年				未実施	×	
2	世話人の学習機会の保証	地域活動の活性化	2回/年	通年				未実施	×	
3	広報活動の強化	・地域の結束強化 ・地域活動の活性化	4回/年	通年				未実施	×	

## 埼玉地域交流会

2022 年度は環境イベントへの出展活動は以前とほぼ同様にできましたが、会員向けの行事であるフォーラムや見学会は、コロナ対策などを考慮して開催できませんでした。イベント出展では、大人や子どもたちがエネルギーを生み出す体験を通して、省エネや再エネの重要性を感じてもらうことができました。

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	埼玉地域フォーラム	悪化が進む気候変動問題や再生可能エネルギーの会員の情報交換共有	年 1 回 開催					0 回	×	2023 年度は開催を目指します
2	見学会	太陽光発電などを含めた再エネ施設や活用施設の見学を通しての情報共有	年 1 回 以上					0 回	×	同上
3	独立型 PV 組立講座 ワークショップ	PV の普及	年数カ所	年数カ所を予定				0 回	×	講座開催の希望の組織を開拓する必要あり
4	自治体などのイベント 参加	県・市町村・環境団体主催のイベント参加による PV-Net 活動の周知、会員拡大	5 イベントに参加	通年				7 回	○	5 月:くまがやエコライフフェア、8 月:熊谷打ち水大作戦、9 月:ニャオざねまつり、11 月:SAITAMA 環境フェア、12 月:イルミネーション RE100、3 月:遊んで学ぼう エネルギー、5 月:SAITAMA 環境フェス
5	児童・園児・父母対象の環境学習の開催 および、PV 講演会の開催	・自然エネルギーの普及啓発 ・将来への投資 ・PV 普及を目的とした講演会開催	県内・外 数カ所	随時				3 件	○	7 月:ほしのみや幼稚園(七夕) 3 月:PV 講演会(川口、山形置賜)
6	・市民発電所の維持管理 ・スイッチング推進 ・発電量の計測および健康診断による発電量チェック ・新規発電所の設置	・PV 設備のメンテナンス ・パワーシフトの推進 ・PV の普及・啓発	新設 1 カ所	随時				新設 0 件	△	譲渡済みの 3 件の発電所の健康診断を継続。以前のような補助金 + 寄付金での設置は難しくなってきた。その他の方法の検討が必要
7	世話人会の開催	地域交流会の運営 (当面 Zoom で開催)	定例開催 (第 2 土曜)	通年				12 回	○	リアル開催: 7 回 Zoom 開催: 5 回
8	NEWS (さいたま通信) 刊行継続とホームページの運用	・発電量の近隣比較の広報及び PV 健康診断の入力促進 ・卒 FIT 体験、PV 撤去にまつわる話、トラブル事例など会員に役立つ情報の発信 ・バルコニー-PV などの PV の最新技術情報の発信 ・イベントなどを地域会員に知らせ、参加につなげる	2 カ月毎	通年				7 回発行	○	11 月:発電量入力キャンペーン、2 月号外:インボイス対応について さいたま通信各号を埼玉 HP ヘアアップし、今年度開設した FB のアカウントに各号アップ時に告知した。さいたま通信の配布は、メールを基本としていますが、短縮版をメールを受信できない会員向けに郵送しています
9	PV の不具合対応 & 相談対応	・太陽光発電の健全な普及 ・発電量の確保 ・PV-Net の存在価値向上	対応率 100%	通年				不具合対応 2 件 相談会 1 回	○	6 月:会員 S 宅 PC 交換 2 月:会員 H 宅不具合調査 3 月:PV 相談会(川口)

### 千葉地域交流会

新型コロナウイルスの影響でリアルな世話人会は開催できなかった。Zoom 世話人会の参加者も少なくなってきたことから、後半は千葉会員も含めた情報交換会として開催した。太陽光発電量分析委託事業収入は地域財源の貴重な安定収入となっている。リネットちばへの参加は継続できている。イベント出展はリアルがなくなり、浦安市環境フェアのポスターセッションとエコメッセちばのオンライン出展（動画配信）となった。

No.	2022年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間評価	活動によってあげた成果や目標に対する評価、課題、今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	世話人会の開催 情報交換会開催	・情報交換／共有 ・Zoom 会議の導入	12回／年 開催	通年				12回	○	情報共有、意見交換 会員の相談対応ができた
2	自然エネルギーを広めるネットワークちば定例会	・定例会へ参加 ・情報交換／共有 ・他団体との連携	12回参加 イベント共催	通年				11回	○	情報共有、意見交換ができた
3	市民エネルギーちば株式会社から業務委託	・ソーラーシェアリング発電所の発電量分析／報告 ・知見を得る	20 発電所 分析	通年				20 設備	◎	委託料収入が地域収入の安定化につながっている
4	イベント出展	・エコメッセちばオンライン出展（動画配信） ・浦安市環境フェア	2回／年 出展	7月	10月			2回	△	浦安市環境フェアポスターセッション エコメッセちばオンライン出展
5	セミナー開催	・卒 FIT 実践事例紹介 ・再エネ／省エネ全般 ・気候変動	2回開催	通年				0回	×	セミナー開催はできなかった

### 東京地域交流会

コロナもあり地域交流会としての企画や活動はほとんどできなかった。世話人会も開催できず。

No.	2022年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間評価	活動によってあげた成果や目標に対する評価、課題、今後の改善点について
				6～8月	9～11月	12～2月	3～5月			
1	温暖化啓発 ・自治体、生協、NPO などで学習会 ・GLP 協力呼びかけ	自治体などに関心高い人 イベントなど→「ふつうの市民」 ★講師体制、育成	オンライン:1000人 会場:300人	・『気候変動と日本』上映会&温暖化入門を Zoom で ・ゼロカーボン自治体向けの GLP 説明会、環境省メルマガで広報協力を自治体に依頼したが×。公平性の観点から「特定団体のみを特別扱いできない」とのこと				Zoom 申込 210、うち出席 120? (全国)	△	結局、Facebook 広告のみで広報ルート開拓できず。 バルシステム神奈川の協力はあり
2	住宅ソーラー普及	わが家で実施できる脱炭素対策の普及。長期経済メリット（値上がりナシ）、非常用電源訴求	10人	・ソーラー & 蓄電池入門… オンラインで独自に実施 ・自治体への協力依頼 → 業者紹介が公平性の点で懸念、年度途中で大きな取り組みは入れられない等				GLP 全体のうち都内 4 件	△	こちらも引き続き広報ルート拡大が課題
3	再エネ電気普及	・再エネ電気への買電切替 ・非 FIT 電気売電切替	50件	温暖化学習会、ソーラー & 蓄電池入門等の中で紹介				0	×	FIT 電気の原価高騰もあり、特段の取り組みはできず
4	地域連携の促進 再エネ～SDGs 関連 市民団体の連携プラットフォームづくり	・各団体の企画告知範囲拡大 ・コラボ企画による集客範囲拡大	10 団体 ×2 エリア	武蔵野・三鷹で連携プラットフォームを作りがけたが頓挫。 最もデジタル度が低い団体に合わせてメールで始めたが、SNS に慣れている団体は却って手間が増える				—	△	最低減、Facebook で再挑戦
5	政策提言	地域・国の温暖化対策を自治体に提案 = 「〇〇市民提言」 2023.4 統一地方選に向け脱炭素議員・首長見える化	市民提言 →市議選 10 地域	陳情 12 月でなく 3 月に（武、三、調、杉、中、横須賀）。4 月地方選中の議員別陳情賛否公表とつながるため、陳情から PV-Net 外で実施。無名団体の単発発信は怪文書っぽい。他地域の支援はできず				—	○	地域でのフォロー拡大を進めつつ、エネ基改定の進捗に合わせて
6	イベント出展	コロナが終息すればリアルイベントに参加。参加可能なオンラインイベントについても調査	検討中	むさしの環境フェス in Summer@エコ re ソートで温暖化早押しクイズ（アプリ）。来館者が数組の中から参加 2、3 組（独自での集客なし）				親子 2、3 組	△	「早押しクイズ大会」は景品などあれば参加しやすい企画として使えそう

【年間評価】◎：目標を達成（達成率 120%以上） ○：目標を達成（達成率 100%以上） △：目標未達（達成に向け改善可） ▲：目標未達（改善不可） ×：実施されず

## 神奈川地域交流会

コロナ禍においても以下の活動を実施した。

- ・ ニュースレター「PV かながわ」を毎月発行しメールにて配信。2023 年 6 月で 97 号を発行
- ・ ワークショップ「出前発電所を作ろう！」を年数回開催、参加者は可搬型太陽光発電装置を自作し、日常的メンテナンスも可能とする
- ・ 地域のイベントに参加したり、出前授業など環境教室を実施、ソーラーランタンやソーラーバッタの工作を活用
- ・ 会員への情報共有と神奈川の活動を地域 HP (<https://pvkanagawa.livedoor.blog/>) で紹介

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	フォーラム PV かながわ 2023 を開催	再エネ利用拡大でカーボンニュートラルを実現！ & 太陽光パネルリユース リサイクル	年 1 回			1/29		年 1 回	◎	・出席者（講師も含む）41 名、アンケートは 15 名より受領 ・サテライト会場を準備したが、参加者が全くなかったためオンラインのみで運用 ・講演資料は当日の Q&A といっしょにブログにアップしたが、録画（457MB）のアップは実施せず
2	ニュースレター「PV かながわ」を毎月発行しメールにて配信	タイムリーな話題や毎月の発電量の近隣比較などを会員へ提供し情報の共有を図る	12 回 / 年	通年				月 1 回 発行	◎	毎月執筆者を決めて発行するのは負担だが、継続が大切。読者からの反響も出ている
3	ワークショップ「出前発電所を作ろう！」の開催	会員、一般の希望者を募集して開催	年数回		10/30	2/19			◎	新型コロナウイルス禍も一段落したので、従来通り実施した
4	地域のイベントに参加	①ソーラーバタフライやソーラーバッタなどを活用し、青少年への環境教育を目的に出展 ②市民への太陽光発電啓発の展示「太陽光発電をもっと暮らしの中に」		①青葉区脱炭素化啓発イベント（子供の国）ソーラーバッタ・ワークショップ出展 12/3 まなぶん祭り再開（保土ヶ谷区役所地下会議室）11/15・16 ほどがや区民ギャラリー展示（区役所 1F）1/25～2/3 アーバンアートほどがや展示（JR 保土ヶ谷駅 3F）2/10～22 ②さがみはら若葉まつり（エコパークさがみはら）展示 5/13,14 さがみはら環境まつり（ミウイ橋本）出展 6/19 「SAGAMIHARA SDGs EXPO」出展（ユニコムプラザさがみはら）2/4					○	新型コロナウイルス禍も一段落したが、依然として展示が中心
5	出前授業など環境教室を実施	さがみはら地球温暖化対策協議会の出前講座で講師		星が丘公民館成人向け講座（再エネの話とソーラーランタン工作）4/22					○	
6	その他、地域での活動	行政への提言		相模原市長に再エネ拡大についての提言書提出 2/14（提言書は PV さがみはら会員で作成し、さがみはら地球温暖化対策部会長名で提出）					○	民間の資金を活用した PPA や市民債による公共施設への再エネ導入を提言したが、今後もその実現を市に働きかけていきたい
7	地域ホームページの運用 <a href="https://pvkanagawa.livedoor.blog/">https://pvkanagawa.livedoor.blog/</a>	会員間の情報共有と PV-Net 神奈川の活動を紹介	随時	通年				随時 更新	◎	以前のホームページの URL が「https://」になっておらず、県の地球温暖化防止活動推進員への紹介配信ができなかった。URL 変更「https://」を行った
8	世話人会の開催	世話人間の情報交換、地域交流会活動の企画、計画の立案、実施	毎月開催	通年				月 1 回 オンライン開催	○	オンラインでも出席者が少ないのが悩み

### 山梨地域交流会

2022 年度もコロナ禍のなかでの活動となったため、最低限のこを行いました。

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	ライトダウンやまなしへの協力	・消灯の呼びかけ ・PV-Green の利用普及	年 1 回の ライトダウン開催		11/19				○	消灯呼びかけなどを行った
2	PV-Greenを活用したサッカーJ2 ヴァンフォーレ甲府のホームゲーム開催をはじめとするPV-Greenの普及	一般県民に対し、PVやPV-Green のさらなる普及を図る活動の展開	年 1 回以上		9/10				○	NPO 法人みどりの学校の協力のもと、9/10 ヴァンフォーレ 甲府 ホーム 戦 にて 2,400kWh の PV-Green の活用が実現し、1.1トンのCO <sub>2</sub> 削減につながった
3	Web (芦澤・みどりの学校 SNS) 上での太陽光発電メンテナンス (PCS のチェック、交換など) の啓発活動	太陽光発電維持のための正しい知識の啓発活動の展開	年間を通じて						×	今後の課題となったが、次年度力を入れていきたい
4	役員会の開催	活動の展開	—		11/2				△	小規模な打ち合わせのみ
5	・会員の拡大 ・学習会の開催	PV のさらなる普及を他団体とも協力して進める	年間を通じて	通年					△	・PV-Green については啓発できた ・山梨県内では、大規模太陽光発電の影響により太陽光発電設備についての誤解が生まれているので、その解消のために様々な場場で発信している

### 静岡地域交流会

①世話人会は代表の都合により不規則開催となってしまった。②見学会は実施できなかった一方で、太陽光発電の地域・社会的受容性を研究する大正大学社会共生学部の田島恵美准教授から、市民共同発電所視察の依頼があり受け入れを行った。コロナ禍による行動制限もあり、静岡地域交流会全体としての活動はなかった。

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	フォーラム・セミナーの開催 (最低年 1 回)	・新たな地域会員の獲得による会の活性化	会員増 10 名	掛川市				—	▲	なし
2	見学会の実施	関連施設や技術を体感し理解を深め今後の活動の質を向上させる	実施 1 回					—	▲	なし
3	行政・自治体活動社会活動への参画	・活動内容の紹介と市民の環境意識の向上 ・関連周辺視野の拡大	参画 6 回	EV06 関連事業				—	△	「ひまわり集会 in 静岡」太陽光+蓄電池による電源供給 (参加者 2 名)
4	市民共同発電所運営管理、建設	・会の活動費の確保 ・管理・設備保守、看板付け替えなど	—	2 回	2 回		2 回	6 回	○	草刈り
5	保守メンテナンスを通じた会員へのサービス提供	・地域会員の結束強化 ・会員の保守意識の向上 ・保守技術の向上 ・マイクロインバータおよびバッテリーの普及	—					—	▲	コロナの影響による行動制限
6	世話人会の開催	・地域の結束強化、地域活動の活性化 ・世話人 18 名体制と拡充	開催 9 回	Zoom	Zoom	Zoom	Zoom	11 回	▲	事前通知及び活動内容不明瞭が減と思われ参加者限定となる

【年間評価】◎：目標を達成 (達成率 120%以上) ○：目標を達成 (達成率 100%以上) △：目標未達 (達成に向け改善可) ▲：目標未達 (改善不可) ×：実施されず

### 中部地域交流会

1. 地域の灯を消すわけにもいかず、細々と月一の世話人会は続いている。2. 市民共同発電所建設の推進・検討は、発電家電「太陽君を作りますか」のチラシ作成まで進んだものの頓挫。3. 新電力「MY パワーとの協力強化」課題は、MY パワーの実証事業が終わり、中部世話人会は、愛知県内再エネ保有者に「地域で作った電気を地域で使う」活動への参加・協力を呼びかけることとした。

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	世話人会の開催	地域会員の結束強化に努める	毎月開催	3回	3回	3回	3回	12回	○	
2	市民共同発電所建設の推進・検討	市民共同発電建設について、会員と名古屋市の人々との間で議論を始める	—						×	
3	MY パワーとの協力検討	・新電力との連携による組織の活性化 ・会員拡大	—						△	

### 京都地域交流会

交流活動が難しい状態は続いている。若返りが必要。

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	関西（滋賀・京都・大阪・奈良）として活動	廃棄に関する相談 1 件： 無償（奈良→愛知）		7月				—	○	件数は少ないが相談は舞い込んでくる
2	本部からの相談依頼	本部からの移転に関する相談 1 件： 有償（京都→隠岐島）				1月			○	
3	関西（滋賀・京都・大阪・奈良）として活動	設置に関する相談： 継続中。GLP 案件予定					3月		○	勉強会案内後相談される 2023 年度 FIT 予定案件
4	勉強会開催	「PV を取巻く電力事情 (ちよこつ勉強 PV)」を グーグルドライブで発信	1 回/年			1月		1 回	○	リアル勉強会ではないが反応は少しあった

**兵庫地域交流会**

自然エネルギーの普及啓発に関する事業を行い、CO<sub>2</sub> オフセットによって地球温暖化防止に寄与することを目的として活動している。2022 年度は、神戸市灘区を流れる六甲川の流水を利用した小水力発電設備の維持管理ならびに、設備設置敷地内の木材資源を活用するための活動を実施した。各活動においては、「脱炭素」「資源循環」「サーキュラーエコミー」をキーワードとして推進した。

No.	2022 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	・フォーラム、セミナー 開催 ・他団体主催の イベント	再生可能エネルギーの普及	参加者 80名以上	セミナー 8/19	他団体支援 8/20 11/5	フォーラム 12/4	フォーラム 12/4 他団体支援 12/17	参加者 セミナー: 45名 フォーラム: 59名	◎	新型コロナウイルス感染拡大の状況にあり、フォーラムを会場・オンラインのハイブリッド開催。のべ 104 名が参加
2	神戸市灘区水車新田 における小水力発電 事業	自ら再生可能エネルギーの 創エネを実践する	安定稼働 収益事業化	維持管理・トラブル対応 視察者・見学者受け入れ				河川流量 不足のため、間歇運 転が多発、 想定発電 量を大幅に 下回った	△	公的機関視察（4 機関 19 名）、団体による見学 （13 団体 111 名）、マス コミ取材（2 団体 4 名）
3	小水力発電設備設置 エリアの里山林整備と 活用	環境に関する「学びの場」 「憩いの場」作り	近隣住民の参 加イベント開催	通年 ワークショップ 2/7				小水力発電 所敷地内の 里山整備活 動を月次実 施	◎	・山林資源の活用案の調 査と実践 ・伐採樹木を利用した新作 り、バイオ炭作り、チップ 化、楢木として活用 ・里山整備で出た雑木を使 った色鉛筆づくりワークシ ョップ
4	太陽光発電の発電に 関する情報提供	地域会員の会員満足度 アップ	メール、FB での 情報提供	勉強会 10/19 通年				勉強会 50 名	○	・太陽光パネル大量廃棄問 題勉強会 ・Facebook での活動報告
5	世話人会の開催	地域活動の活性化	毎月開催	通年				毎月開催	◎	世話人の積極的な参画に より活動の企画、推進がス ムーズに実施できた

## 3号議案 2023年度活動方針（案）

### （1）2023年度活動方針

前述のとおり PV-Net は 2030 年に向けて PV-Net Vision2030 を検討しており、現状以下の 3 つのビジョンを柱としております。

- ① プロシューマとしての太陽光発電システムの普及推進
  - A) プロシューマとして市民への太陽光発電の情報発信
  - B) プロシューマとして設置から廃棄までを適切に行える仕組みづくり
- ② 地域循環共生コミュニティの構築・強化
- ③ カーボンニュートラルに向けた社会の変革

2023 年度はこのビジョン達成を目指す最初の年となります。これらのビジョン実現の基礎となる地域交流会を活性化する活動を中心に推進していきます。

### （2）重点活動

#### ① プロシューマとしての太陽光発電システムの普及推進

##### 1. 食とくらしの「グリーンライフ・ポイント」の推進

昨年度から開始した「食とくらしの『グリーンライフ・ポイント（GLP）』推進事業」をさらに推進し、「ソーラー・蓄電池の導入支援」「再エネ新電力への切り替え」「パネルのリユース・リサイクル」を PV-Net 全体の事業とし、会員、市民へのポイント還元をインセンティブとした環境配慮行動をとってもらえるよう、まずは今年度中に各地域において勉強会を開催。事業を理解してもらいながら、新規導入者 100 件を目標とします。

##### 2. プロシューマ団体としての正確な情報発信

インターネットや SNS 上には誤った情報が氾濫しています。太陽光発電システムについての正確な情報や気候危機のリアルについて、SNS やメール、勉強会などの場を活用し、PV-Net として月に 1 回以上は情報発信していきます。気候危機に対して PV-Net としての意思表示を明らかにし、地域や自治体とその認識を共にしながら政策転換を促します。

##### 3. 地域活動の活性化

地域会員・世話人をベースとした地域活動を進めるにあたり、COVID-19 で滞っていた各地域で、セミナー・勉強会などの地域交流会活動を開催していきます。

##### 4. 新たな PV リユース・リサイクルの仕組みづくり

年初に行った会員のアンケート調査でも「廃棄について心配である」と回答された会員が多くいることが明らかになりました。このリサイクル・リユースの仕組みづくりは喫緊の課題であるとの認識に立ち、GLP 事業を活用しながら、現在リユース・リサイクルを行っている企業との連携により今年度中に仕組みを立ち上げ、試行を行います。まずは廃棄やリユースの相談窓口として PV-Net に連絡が来るよう、パワコンに貼れるステッカーなどを作成して会員に配布することなども検討中です。

## 5. PV 健康診断システムのリニューアル

長年システムの更新ができず、一部に不具合を抱えたまま運用してきた PV 健康診断ですが、2023 年 12 月までにリニューアルし、現システムからの移行を予定しています。現状入力いただいているデータは、新システムへと自動的に移行され、新たな機能も追加できるようにします。PV-Net の財産である PV 健康診断の発電データを今後さらに発展していく予定ですので、会員の皆さまには引き続きデータ登録へのご協力をお願いいたします。

## ② 地域循環共生コミュニティの構築・強化

### 6. 再エネ利用の拡大に向けた取り組み

分散型の再エネ電力を個々に集め、小売電気事業者などに供給する事業者をアグリゲーター（特定卸供給事業者）といいます。PV-Net も将来、会員の電力を集約したり、会員間で電気を融通することを志向しており、その準備段階として GLP 事業のなかで、地域と関わりのある新電力と連携による「電力会社の切り替え」を推進し、50 件の切り替えを目指します。

### 7. 気候危機回避と、安全安心な地域社会構築をめざす

国内の SDGs を推し進める自治体や企業、協同組合など、各種団体と連携を推進します。今後も発生が予測される深刻な気象・地震災害に対する有効な対応策として、自治体、地域や住民に対して、再エネ・蓄電・EV 活用などの普及による事前予防としての取り組みや勉強会を開催します。

## ③ カーボンニュートラルに向けた社会の変革

### 8. ルールチェンジ、システムチェンジに向けた働きかけ

今年度は国の基本エネルギー計画（第 7 次）の見直しの年（3 年に一度）となります。日本のエネルギー政策の基本となる重要な計画になりますので、PV-Net としてもパブリックコメントを出すだけでなく、各地域の地元地方議会を通して「国への意見書」を請願として出すことなどを検討します。

### 9. 電気自動車（EV）向け充電ステーション拡大支援

電気自動車（EV）が普及した社会を目指して、インフラとしての EV 向け充電システム拡大に向けコビ電（株）との連携を進めています。同社が進めている WeCharg 事業を支援することで全国の充電ステーション拡大を支援します。

### (3) 地域交流会活動計画

人との交流が断たれ、あらゆることが規制されたコロナ禍の3年間でした。希薄となりつつあった地域でのつながり、触れ合い、活気を取り戻す2023年を目指します。

#### 東北6県地域交流会

東北6県地域交流会は、再始動と捉えて取り組む。各県の会員の方と連絡を取ってまいります。ぜひつながりましょう。

メール：s-sakio@mtg.biglobe.ne.jp SMS：09062228634 Facebook：https://www.facebook.com/s.sakio

No.	2023年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				(参考) 活動方針・重点活動 との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	・各県の会員を知る ・各県地域交流会の設立・世話人の選出	各県の会員の動向をできる限り把握して、各県地域交流会のメンバーが確定できることを目指す。世話人の選出や、活動の方向付けなど、その先は地域の事情に合わせて調整し、地域間で相互依存する関係を目指す	東北6県について各県で主体的に参加できる人数が把握できること	岩手 山形	宮城 福島	秋田 青森	フォロー	3.地域活動の活性化
2	・事業化の推進 ・ワーカースクープ法人 (労働者協同組合法人)での事業化	「コミュニティパワーいゆて」設立	事業所の設立	準備	事業化	事業展開	まとめ	3.地域活動の活性化 7.気候危機回避と、安全安心な地域社会構築をめざす
3	自治体のカーボンニュートラル宣言への参画	自治体とのつながりづくり	1つ以上の自治体との連携	通年				3.地域活動の活性化 7.気候危機回避と、安全安心な地域社会構築をめざす
4	活動全体を通じて新規会員の獲得声かけ	活動を通じて地域のキーマンや次世代リーダーの発見と連携づくり	1人以上の新入会員確保	通年				3.地域活動の活性化

#### 群馬地域交流会

新型コロナウイルス感染症の後遺症により途切れてしまった世話人会の絆を取り戻すべく、「世話人会の再開」の1点に絞り活動していきます。

No.	2023年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				(参考) 活動方針・重点活動 との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	世話人会の開催	地域の結束強化 地域活動の活性化	2回/年	通年				3.地域活動の活性化

**埼玉地域交流会**

2022 年度に引き、県内各種団体とコラボした環境イベントに参加し、省エネと環境問題対応行動が必要であることを大人や子どもたちに気付いてもらう活動を実施する。また会員には引き続き、卒 FIT 後の相談と、自主点検の実施の提案および情報発信を行っていく。

No.	2023 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				(参考) 活動方針・重点活動 との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	埼玉地域フォーラム	悪化が進む気候変動問題や再生可能エネルギーの会員の情報交換共有	年 1 回 開催			年度後半を予定		2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 3.地域活動の活性化 7.気候危機回避と、安全安心 な地域社会構築をめざす
2	見学会	太陽光発電などを含めた再エネ施設や 活用施設の見学を通しての情報共有	年 1 回以上			年度後半を予定		2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 3.地域活動の活性化
3	独立型 PV 組立講座 ワークショップ	PV の普及	1 回以上	年数カ所を予定				3.地域活動の活性化
4	自治体などのイベント 参加	県・市町村・環境団体主催のイベント参 加による PV-Net 活動の周知、会員拡大	5 イベントに 参加	通年				2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 3.地域活動の活性化 7.気候危機回避と、安全安心 な地域社会構築をめざす
5	児童・園児・父母対象 の環境学習開催およ び、PV 講演会、相談会 の開催	・自然エネルギーの普及啓発 ・将来への投資 ・PV 普及を目的とした講演会開催	県内 数カ所	随時				2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 3.地域活動の活性化
6	・市民発電所維持管理 ・スイッチング推進 ・発電量の計測および 健康診断による発電 量チェック ・新規発電所の設置	・PV 設備のメンテナンス ・パワーシフトの推進 ・PV の普及・啓発	新設 1 カ所	随時				2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 3.地域活動の活性化 5.PV 健康診断システムの リニューアル 6.再エネ利用の拡大に向けた 取り組み
7	世話人会の開催	地 域 交 流 会 の 運 営 (当面 Zoom で開催)	定例開催 (第一土曜)	通年				3.地域活動の活性化
8	NEWS (さいたま通 信) 刊行継続とホーム ページの運用	・発電量の近隣比較の広報と PV 健康診 断への入力促進 ・卒 FIT 体験、PV 撤去にまつわる話、ト ラブル事例など会員に役立つ情報発信 ・バルコニー-PV などの PV の最新技術情 報の発信 ・イベントなどを地域会員に知らせ、参加に つなげる	2 カ月毎	通年				2.プロシューマ団体としての正 確な情報発信 3.地域活動の活性化 5.PV 健康診断システムの リニューアル
9	PV の不具合対応& 相談対応	・太陽光発電の健全な普及 ・発電量の確保 ・PV-Net の存在価値向上	対応率 100%	通年				3.地域活動の活性化

## 千葉地域交流会

市民エネルギーちばから委託されていた太陽光発電の発電量分析委託事業は2023年で終了し、発電量分析のアドバイザー契約に移行する予定。講師派遣は機会があれば積極的に要請を受け、地域収入に充てていきたい。リアルな世話人は機会を見て開催したい。会員相談&情報交換会は継続開催を目指す。太陽電池のリサイクル工場見学会は実施したい。

No.	2023年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				(参考) 活動方針・重点活動との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	情報交換会開催	・情報交換/共有 ・会員からの相談対応	12回/年 開催	通年				2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 3.地域活動の活性化
2	自然エネルギーを広める ネットワークちば定例会	・定例会へ参加 ・情報交換/共有 ・他団体との連携	12回参加 勉強会講師 参加	通年				3.地域活動の活性化
3	市民エネルギーちば との連携	・ソーラーシェアリング発電所の発電量につ いてアドバイザー的役割を継続する		通年				3.地域活動の活性化
4	イベント出展	・エコメッセちばオンライン出展(動画配 信)	1回出展/年		10月			2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 3.地域活動の活性化
5	セミナー・勉強会/ 見学会開催	・再エネ/省エネ全般/事例報告 ・太陽光パネルのリサイクル工場見学会	1回開催/ 1回開催		11月		3月	2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 4.新たなPVリユース・ リサイクルの仕組みづくり

## 東京地域交流会

2025年まであと2年。単独での広報・活動のほか、協力団体確保、連携の場づくりが課題。

No.	2023年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				(参考) 活動方針・重点活動との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	温暖化啓発 ・自治体・生協・地域団 体等に協力依頼 ・FB以外のオンライン告 知研究 ・参加しやすい間口企 画(連携含)	① 関心低～中層向けの間口企画 ② 関心高い層の活動参加	武蔵野・三鷹 ① 各100 ② 各500 東村山等でも	① オンライン学習会=月1 間口企画はこれから検討(小平、三鷹、武蔵野) ② Activate企画 年度内に1回				1.食とくらしの「グリーンライフ・ ポイント」の推進 2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 3.地域活動の活性化
2	ソーラー普及 ・住宅ソーラー普及… GLP事業 ・事業所PPA	① 住宅ソーラー等 ② 地域事業者向け	① 10件 ② 1件	① リアル学習会開催 ② 未定				1.食とくらしの「グリーンライフ・ ポイント」の推進
3	再エネ電気普及	① 再エネ新電力に切替 ② 非FIT売電も	① 10件 ② 50件	温暖化啓発やソーラー普及の取り組みの中で紹介 都内会員にメール配信				3.地域活動の活性化 6.再エネ利用の拡大に向けた 取り組み
4	地域連携の促進 再エネ～SDGs 関連市 民団体の連携プラット フォームづくり	日常の広報相互協力～年1回共同請 願など	武蔵野・三鷹で プラットフォーム 他区市も検討	キーパーソンとの意見交換、問題意識共有から				3.地域活動の活性化
5	政策提言	① エネ基改定の進捗に合わせ「国への意 見書」 ② 温暖化対策条例署名	武蔵野・三鷹で 陳情提出	① 「ワタシのミライ」の取り組みに合わせて ② 地域連携の上に				8.ルールチェンジ、システム チェンジに向けた働きかけ
6	その他	① イベント出展 ② 講演会 ③ 廃パネルリサイクル ④ 世話人新人	武蔵野・三鷹を 中心に	① 9.9 小平環境フェスティバル、9.18 ワタシのミライ、 11月みたかエコマルシェ、武蔵野環境フェスタ ② 講演会=未定 ③ 事務局で業務スキームできてから ④ イベント手伝いを会員に呼びかけるところから。				3.地域活動の活性化 4.新たなPVリユース・ リサイクルの仕組みづくり

### 神奈川地域交流会

コロナ対策が進めば、活動がより活発化することを望む。

- ・ ニュースレター「PV かながわ」を毎月継続発行し、会員への情報提供を行う
- ・ 年数回ワークショップ「出前発電所を作ろう！」の開催
- ・ 地域のイベントへの参加や出前授業の実施
- ・ 地域ホームページの運用 (<https://pvkanagawa.livedoor.blog/>)

No.	2023 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				(参考) 活動方針・重点活動との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	フォーラム PV かながわ 2024 開催を検討	2050 年カーボンニュートラルへ向け何ができるか？ (仮)	年 1 回			未定		2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 3.地域活動の活性化
2	ニュースレター「PV かながわ」を毎月発行し、メール配信、Web に公開	タイムリーな話題や毎月の発電量の近隣比較情報など、会員への情報提供を行う	年 12 回	通年				2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 3.地域活動の活性化 5.PV 健康診断システムの リニューアル
3	ワークショップ「出前発電所を作ろう！」の開催	部品の確保が課題。会員、一般の希望者を募集して開催	年数回	6/4	10/1	12/10	未定	3.地域活動の活性化
4	地域のイベントに参加	ソーラーパッチャやソーラーランタン、手回し発電機などを活用し、青少年への環境教育を目的に出展	随時	保土ヶ谷区役所区民ギャラリー出展 (5/31～6/8)、でんしゃであそぼう！ in 大倉山出展 (6/17)、さがみはら環境まつり出展 (ユニコムプラザさがみはら) (6/25)、青少年のための科学の祭典 2023 出展 (8/13)、ぼうさいこくたい 2023 出展 (9/17、18)、2023 あつぎ環境フェア出展 (10/22)、まなぶん祭り出展 (11/27、28)、JR 保土ヶ谷駅展示スペース出展 (2/23～3/7)				3.地域活動の活性化
5	出前教室を実施	出前講座など環境教室を実施	随時	ソーラークッカー工作教室 (エコパークさがみはら) (7/26)、都筑図書館夏休み教室開催 (7/27) 相模原市内公民館で出前講座 地球温暖化〇×クイズとソーラーランタン工作 (8/4～6) 成人向け再エネとソーラーッキングの話 (9/21)				2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 3.地域活動の活性化
6	地域ホームページの運用 ( <a href="https://pvkanagawa.livedoor.blog/">https://pvkanagawa.livedoor.blog/</a> )	PV-Net 神奈川の活動紹介と会員への情報発信、コメントを活用した双方向通信の検討	随時	通年				2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 3.地域活動の活性化
7	世話人会の開催	世話人間の情報交換、地域交流会活動の企画立案および実施	毎月開催	通年				3.地域活動の活性化

### 山梨地域交流会

2023 年度は FIT 後の太陽光発電のメンテナンス・維持の情報を発信していきたいと思います。

No.	2023 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				(参考) 活動方針・重点活動との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	ライトダウンやまなしへの協力	・ 消灯の呼びかけ ・ PV-Green の利用普及	年 1 回の ライトダウン開催		11 月頃			3.地域活動の活性化
2	PV-Green を活用したサッカーJ2 ヴァンフォーレ甲府のホームゲーム開催をはじめとする PV-Green の普及活動	一般県民に対し、PV や PV-Green のさらなる普及を図る活動の展開	年 1 回以上		9 月頃			3.地域活動の活性化
3	Web (芦澤・みどりの学校 SNS) 上での太陽光発電メンテナンス (パソコンのチェック、交換など) の啓発活動	太陽光発電維持のための正しい知識の啓発活動の展開	年間を通じて	通年				2.プロシューマ団体としての 正確な情報発信 3.地域活動の活性化

4	役員会の開催	活動の展開	—					3.地域活動の活性化
5	・会員の拡大 ・学習会の開催	PV のさらなる普及を他団体とも協力して進める	年間を通じて	通年				3.地域活動の活性化

### 静岡地域交流会

①セミナー・見学会等による会員交流を行いたい ②若手世話役の希望する活動方針を積極的に取り入れ、転換の年としたい ③ここ数年、対面での会議を行っていないので Zoom 以外の活動を行う ④PV-Net が掲げるビジョンを実現すべく、具体的な活動を模索していく ⑤懇親会の開催

No.	2023 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				(参考) 活動方針・重点活動との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	フォーラム・セミナーの開催 (最低年 1 回)	・新たな地域会員の獲得による会の活性化 ・掛川市におけるグリーンファイナンスの取り組み	会員増 5 名					2.プロシューマ団体としての正確な情報発信 3.地域活動の活性化
2	見学会の実施	関連施設や技術を体感し理解を深め今後の活動の質を向上させる	実施 1 回	未定				3.地域活動の活性化
3	行政・自治体活動 社会活動への参画	・活動内容の紹介と市民の環境意識の向上 ・関連周辺視野の拡大	参画 6 回		3 件	2 件		3.地域活動の活性化
4	市民共同発電所 運営管理、建設	・会の活動費の確保 ・管理・設備保守、看板付け替えなど	—					3.地域活動の活性化
5	保守メンテナンスを通じた会員へのサービス提供	・地域会員の結束強化 ・会員の保守意識の向上 ・保守技術の向上 ・マイクローンバターの普及	—	通年				3.地域活動の活性化
6	世話人会の開催	・地域の結束強化、地域活動の活性化 ・世話人 18 名体制と拡充	Zoom 会議 毎月第 2 水曜 開催予定	通年				3.地域活動の活性化

### 中部地域交流会

岐阜県多治見市で毎年行われている「環境フェア」へは、多治見の会員を中心に 15 年近く出展しています。ネタ切れ、先細り状態ですが、会場をのぞいていただける人たちからは様々な質問を受けます。それならば私たちにとって、PV-Net も人生の一部。どちらが先かはわかりませんが、実践記録『太陽光発電の一生』を作ってみようとなりました。本年度のメイン活動です。

No.	2023 年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				(参考) 活動方針・重点活動との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	世話人会の開催	・世話人の拡大 ・会員間交流、関係団体との連携	毎月開催	3 回	3 回	3 回	3 回	3.地域活動の活性化
2	実践記録「太陽光発電の一生」の作成	・持続可能な暮らし ・会員の発電所の記録化	毎月報告	1 回	2 回	1 回	1 回	3.地域活動の活性化 5.PV 健康診断システムのリニューアル
3	MY パワー運動との連携強化を図る	エネルギーの地産地消活動への参加呼びかけ	毎月検討					3.地域活動の活性化 6.再エネ利用の拡大に向けた取り組み

### 京都地域交流会

交流会活動が活発な兵庫と連携できないか模索したい。

No.	2023年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				(参考) 活動方針・重点活動との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	PVを取り巻く電力事情の勉強（ちよこつ勉強PV）の改訂版	個人では限界あるのでリアルな勉強会とし、多くの意見を集めて正確性を期したい	—			通年		2.プロシューマ団体としての正確な情報発信
2	本部事業に対して協力を試みる	NPO ならではの要請があるはず。その活動を支援する	—	通年随時				1.食とくらしの「グリーンライフ・ポイント」の推進
3	市民共同発電事業化の模索	事業を通じて活発化させる	—	通年随時				3.地域活動の活性化

### 兵庫地域交流会

【地球温暖化防止啓発活動】

- ① 県民向けフォーラム、セミナーを開催
- ② 六甲川水車新田小水力発電設備を活用した視察者・見学者受け入れ

【里山整備と資源活用】

- ① 里山林として持続可能な仕組み作り
- ② 環境学習や憩いの場として活用
- ③ 脱炭素・CO<sub>2</sub>削減活動（バイオ炭・チップ化によるCO<sub>2</sub>地中貯留）

【六甲川水車新田小水力発電事業の推進】

- ① 安定した発電ができるように、保守メンテナンス体制の確立
- ② 事業の黒字化

No.	2023年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				(参考) 活動方針・重点活動との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	県民向けフォーラム、セミナーを開催	再生可能エネルギーの普及	参加者 80名以上	セミナー 8月		フォーラム 12月		2.プロシューマ団体としての正確な情報発信 3.地域活動の活性化
2	神戸市灘区水車新田における小水力発電事業	自ら再生可能エネルギーの創エネを実践する	安定稼働 収益事業化	維持管理／視察者・見学者受け入れ				3.地域活動の活性化
3	小水力発電設備設置エリアの里山林整備と資源活用	環境に関する「学びの場」「憩いの場」作り ・若手会員増	近隣住民の参加イベント開催	通年				3.地域活動の活性化
4	太陽光発電の発電に関する情報提供	地域会員の会員満足度アップ	メール、FBでの情報提供	通年（第2、第3四半期にワークショップを予定）				2.プロシューマ団体としての正確な情報発信 3.地域活動の活性化
5	世話人会の開催	地域活動の活性化	毎月開催	勉強会 10月	通年			3.地域活動の活性化

**NPO 法人 太陽光発電所ネットワーク**

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-10 湯島ビル 602

TEL : 03-5805-3577 FAX : 03-5805-3588

[www.greenenergy.jp](http://www.greenenergy.jp)